

羽生市議会議員 動かせ羽生！ゼロからの挑戦！

# 中島 なおき 無所属 38 歳



BLOG「ゼロからの挑戦日記。」ほとんど毎日更新中！

中島なおき |

検索



冬の自転車街宣。いざ出発！



手子林公民館にて  
議会報告会



国、そして先人を想う...



掛川市の幼稚園を視察



和光市にて 松本市長と共に



埼玉栄高の後輩たちと



冬の太平洋を前に...

## ～ 公職研「自治体職員研修」11月号 ～ ～ 議会を変える議員をつくる ～

羽生市議会議員として、若手政治家養成塾副代表として、地方自治専門誌に議会改革について寄稿しています。第1章、第2章に続いて、本号はいよいよ最終章です。皆さんにとって「地方議会」の在り方について見直すきっかけになってくれることを切望いたします。(バックナンバーあります。ご一報ください。)



～お願い～ ご自宅に使っていない自転車があったら貸してください。政治活動を行うため複数台必要です。

# 議会は変わる

～議を変え議員をつくる～

第2期若手政治家養成塾副代表

羽生市議会議員

中島直樹

## ● 模擬選挙

【模擬選挙】は2部構成で、第1部が「ポスター投票」、第2部が「街頭演説」で獲得票数を競う。

第1部では、浦和駅東口にて、道行く人およそ300名に、どのポスターが印象的か選んでもらった。模擬選挙に際し、広告会社の協力を得て、塾生は本番宛らの選挙ポスターを作成した。大切なのはポスターに書く「キヤッチフレーズ」だ。少ない文字に自身の想いを込める。その過程がどれだけ難しいか、塾生全員が経験をした。

第2部で塾生は「街頭演説」にも挑む。演説内容や声の出し方、表情など、塾役員と協力議員が事細かくチェックし採点を行った。初めての街頭演説に声を震わす塾生、言葉が出ず、原稿を見ながら演説を行う塾生もいた。その様子が多くの人の目にさらされる。塾生にとってはあまりにも非日常的なことであろう。しかし、それが出来なければ、「地盤・看板・カバンなし」で選挙に挑む資格はない。議員になる資格はない。塾生たちに再三伝えたことである。

模擬選挙の結果は非常に面白いものであった。ある塾生が第1部の「ポスター投票」でダントツの票を集めた。しかし、その塾生は第2部の「街頭演説」では最下位だったのだ。その反対にポスター投票で最も苦戦した塾生が、「街頭演説」で最も票を集めるといふ、塾役員も協力議員も予想だにしない結果

であった。

あくまで模擬だが、本番の厳しい選挙では、この模擬選挙の過程で試された「自分の想いを上手く文字で表現する力」、そして「その文字を自らの声で発信する力」といふ、2つの言葉を操る力を兼ね備えなければならぬことを塾生は身をもって体験をした。そして、塾のカリキュラムは模擬選挙をもって修了した。

## 地方議会に目を向けてみる

自分たちの住むまちの議会に再び目を向けてみるとどうだろうか。平均年齢は高く、男性が圧倒的多数。地区や団体に推薦されている議員が100%に近い。名誉職として長く居座り、議案書にも通さない。議会での発言はほとんど行わず、地区や団体の利益誘導を優先している議員も少なくない。地方議会の現況はあまりにも偏っているのだ。

こういった地方議会は決して珍しくはない。都市部から離れば離れるほど、いわゆる田舎ほど、こういった傾向は強いであろう。

そんな地方議会の現況を憂い、まちの将来の中長期的なビジョンを責任もって描き、議会活動に取り組んでいく20代、30代の若年層の議員を増やさなければならぬ。

住民の中には千差万別の行政ニーズがあ

る。議員はそれを的確に把握し、議会の場で行政に届けなければならぬ。それだけではない。目先のものだけにとらわれることなく、政治哲学を持ったオピニオンリーダーになる必要があるのだ。地方分権が叫ばれ久しいが、国や県から税源、権限が移譲された場合、議員が地区や団体の利益誘導を優先しているようでは、一層複雑多様化する自治体運営を担う議会を構成することは出来ないであろう。地方議会議員が名誉職であった時代は、すでに終わっているということをお我々はしっかりと認識しなければいけない。

俗に言う「地盤・看板・カバンなし」で戦えるほど選挙は甘いものではない。しかし、あきらめてはいけない。いつの時代も世の中に変革が起るとき、そこには必ず、地方の若者が結集しているのだ。しっかりとした知識と理念と志をもつ若者をひとりでも多く議会に送り込むこと、それが若手政治家養成塾の使命である。

平成23年4月に行われる統一地方選挙。はたして若手政治家養成塾出身の議員が何人誕生するであろうか。次代の若手が誕生した暁には、その新たな若手が必ずや「若手政治家養成塾」を受け継いでくれるはずだ。

私たちが先輩議員から託されたように、私たちが伝えた言葉を…… (おわり)

※ 寄稿した原文に一部加筆、修正を加えております。